

V-45

P C 箱桁の押出し架設計画

J R 東日本 東北工事事務所 正会員 鈴木 隆裕

1. 概要

本工事は、東北新幹線盛岡・八戸間建設に伴い建設にともない、東北本線金田一駅構内北部で東北本線と東北新幹線が交差するこ線橋金田一-Bi の上部工（桁製作・架設）を施工するものである。本こ線橋は、東北本線と交差する支間 45.0m、幅員 12.5m の P C 箱桁形式の新幹線鉄道橋となる。

金田一-Bi の施工においては、地形的な制約、前後の工区との兼ね合い、工期、安全の確保等の条件から非常に施工が難しいものであり、この上部工の施工計画について検討したので報告する。

2. 現場条件

金田一-Bi は、図-1 に示すように、現場は前後を急な斜面に挟まれ、青森方 P3 橋脚付近には、幅員 2.0m 程度の市道と踏切、近くには民家も存在する。また、金田一-Bi の前後では別工区の工事が行われており競合する。

東北本線とは 38 度の角度で交差しており、桁上面とレールレベルの離れは 9.5m 程度である。東北本線下りの建築限界から P3 橋脚側壁までの離れは、約 14.0m である。施工ヤードは、鉄道建設公団の施工区との工程調整等の結果、P3 橋脚と P4 橋脚間の 1 スパン (29.0m) の使用が可能となった。また、工期も非常に短期間であり、安全についても線路上空作業となるため細心の注意をはらい、施工を迅速かつ精度良く行わなければならない。

3. 施工方法

施工方法は、2. 現場条件より狭隘な施工ヤード、線路上空での架設、工期等を検討した結果、押出し工法（集中方式）を採用し、架設を行うこととした。

4. 上部工形式の決定

押出し工法桁架設時の作業効率が良く、狭隘なヤードでの施工性、安全性を検討した結果、構造形式は桁高 2.9m、内空高 2.3m の内ケーブル方式の P C 箱桁となった。

5. 架設計画

5-1 押出し計画

金田一-Bi のスパンは 45.0m であり、施工ヤードは図-2 に示すように線路方向に 29.0m、直角方向に 13.5m と狭い施工ヤードとなっている。桁製作においては 45.0m を一度に作成することは、不可能であり、適切なブロック割で桁の押出しを行う必要がある。施工ヤード内の作業状態、押出しサイクル等を検討した結果、3 ブロック (15.0m × 3 =

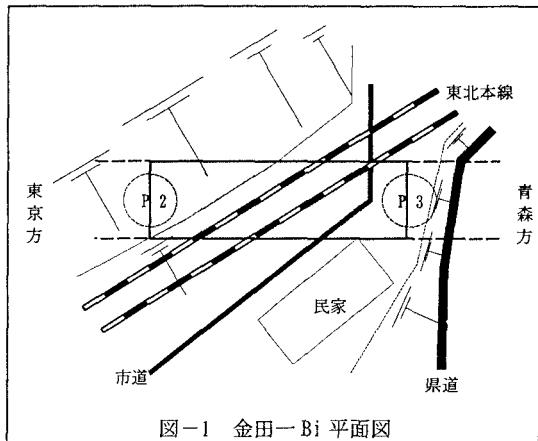


図-1 金田一-Bi 平面図

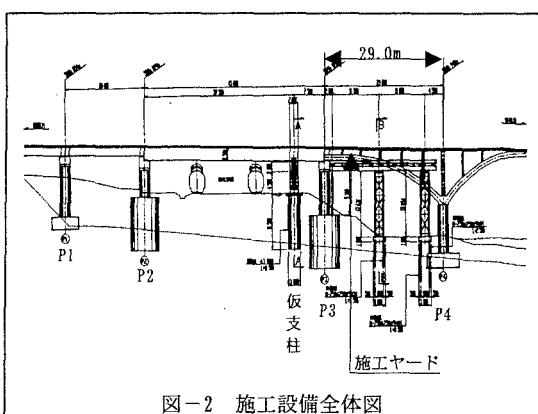


図-2 施工設備全体図

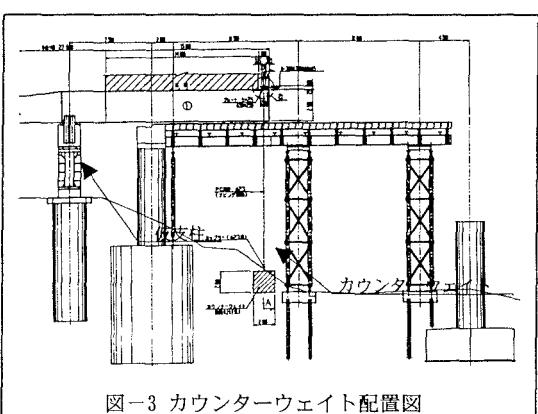


図-3 カウンターウェイト配置図

45.0m)に分割し施工を行うこととした。この際に、手延べ桁と本桁のバランスから、P3 橋脚より 7.0m の位置に仮支柱を仮設することとし、架設スパン 38.0m、手延べ桁長 27.0m で押出すこととした。押し出しの際には、線路上での作業を避けるため、高欄は桁と一体で押し出す。

5-2 押出し時の検討

手延べ桁押出し時から 2 ブロック押出し終了時までの間、長期間線路上空に張出したままの状態となることから、手延べ桁押出し終了後、1 ブロック押出し終了後、順次手延べ桁後方、1 ブロック後方に、図-3 のようにカウンターウェイトを設けることとした。このカウンターウェイトは、地震時鉛直力（浮上がり）に抵抗する重量としている。また、地震時の滑落対策として、サイドガイドを仮支柱に設けることとした。P2 橋脚を反力とし押出し装置は P3 橋脚に設置し押出していくこととした。押出し時の負モーメントに対し上床版に内ケーブル（仮設 PC 鋼棒）と外ケーブル（仮設 PC 鋼線）を配置し、押出し終了後緊張を開放し PC 鋼材の撤去を行うこととした。

5-3 架設設備の検討

仮支柱断面図を図-4 に示す。押出し時に仮支柱前面には大きな反力が働くため基礎形式は、支持杭を用いる必要があった。スペースが狭く大型の機械等が搬入できないため、仮支柱の基礎形式は深基礎杭とすることとした。仮支柱本体は、品質の確実性、施工時のスペース、工期や架設終了後に撤去すること等を検討した結果、コンクリートプレキャストブロックを柱、梁部に用い簡略化をはかるとした。プレキャスト化することによる PC 鋼棒による緊張には、若干手間がかかるが、前述したプラス要因より有利と判断した。

5-4 架設順序

架設順序は、図-5 に示すとおりである。仮支柱を設置し施工ヤードを仮設する。次に手延べ桁を組立て、1 ブロックを製作し、所定の位置まで送り出す。同様に 3 ブロックまで順次押出していく。また、ブロック製作時には、落橋を防止するため手延べ桁を固定することとした。2 ブロック押出し後に手延べ桁が P2 橋脚に到達する。この時点でカウンターウェイトを撤去する。3 ブロック押出し時には、P1 橋脚と P2 橋脚間で手延べ桁を順次解体し、押し出し終了後、架設設備を撤去し完成となる。

4. 最後に

本工事は平成 11 年 12 月工事を契約している。今回の計画を無事成功させるため、確実な施工管理をしていきたいと考えている。

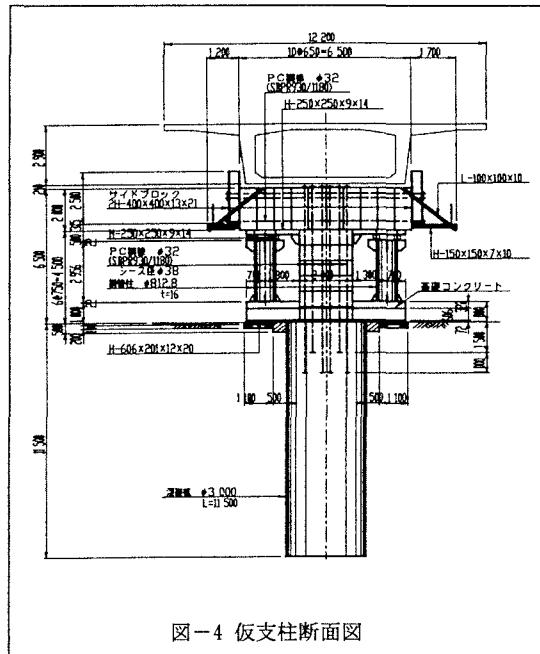


図-4 仮支柱断面図

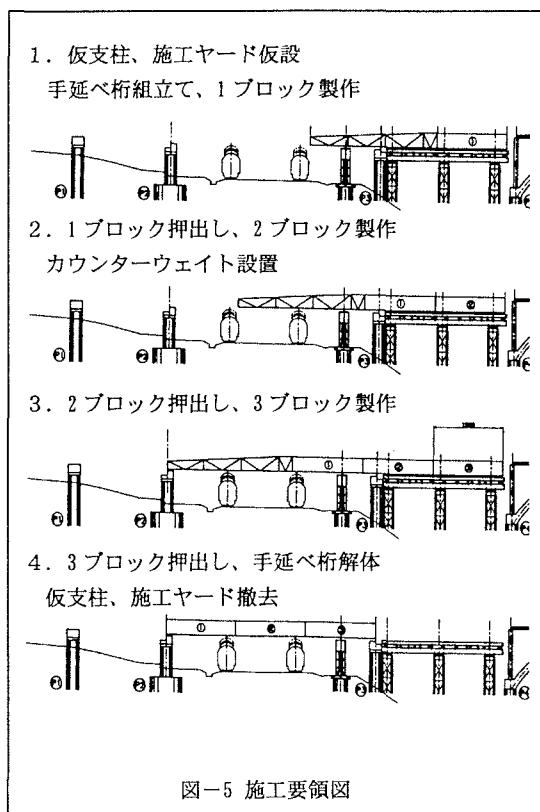


図-5 施工要領図